

水資源を利用した山梨県昭和町のブランド力強化

山梨大学 学生会員 ○奥脇崇太 山梨大学 学生会員 川原裕美子
山梨大学 正会員 武藤慎一 山梨大学 正会員 中村高志

1. 背景

山梨県昭和町は甲府盆地の中心に位置し、その地形的特徴から南アルプスの山々から地下水が流れ込む豊かな水資源を持つ町である。また、近年、都市開発が進み、高速道路や地域高規格道路などの建設による交通環境の向上や商業施設の建設、さらには県内有数の工業集積地となっている。そのため、昭和町は交通・商業・工業のバランスの取れた都市であり、人口が増加していることから住民にとって魅力的なまちであると言える（図-1）¹⁾。

しかし、年々観光客数が増えつつある山梨県のなかで昭和町への観光客数は多いとは言えない（図-2）。現状がある²⁾。理由としては、歴史的遺産や観光資源、さらには特産品にインパクトのあるものがないことと、昭和町の交通アクセスの良さから甲府市にある昇仙峡や南アルプス市などにある観光スポットやフルーツ狩りを楽しむ観光客にとって、通過点になってしまっていると考えられる。

それは、昭和町の行政も強く認識しており、対策として「昭和町都市計画マスタープラン」の見直しが行われ、今後、昭和町らしさを活かした柔軟なまちづくりが期待されている。しかし、豊かな水資源をどのように活かせば昭和町を活性化させられるのか、明確な解答がなかなか得られないのが現状である。

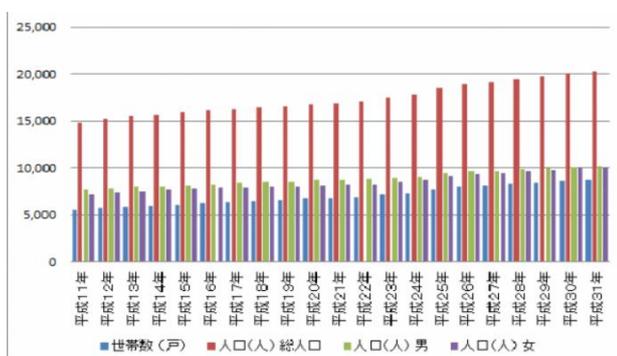


図-1 昭和町の人口・世帯数推移

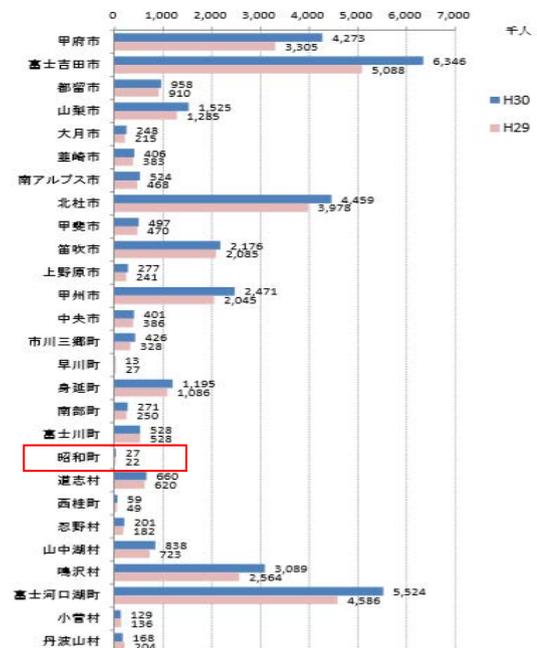


図-2 市町村別観光入込客数

2. 目的

そこで、昭和町のブランド力強化を図るため、やまなし「水」ブランド戦略をもとに、昭和町の持つ豊かな水資源や交通アクセスの良さを活かした新たな施設や特産品に関する計画のアイディアを創出し、提案することを目的とする。

3. ブランド強化計画

3.1 山梨県の特産品を集めた多機能型道の駅

観光資源が乏しいことから、昭和町には道の駅が今まで無く、観光資源を新たに作り出すことも難しい（図-3）。そこで、南アルプス市や甲府市などの昭和町周辺の市町村を訪れる観光客をターゲットに、山梨県各地の特産品の販売・ものづくり体験・流行に乗った商品販売を行う店舗を建設する。そこでは、商店街としての機能や道の駅、観光案内所の機能も兼ね備えさせた施設の建設を行うことで、甲府盆地の新たなランドマークとする計画を提案する。施設に

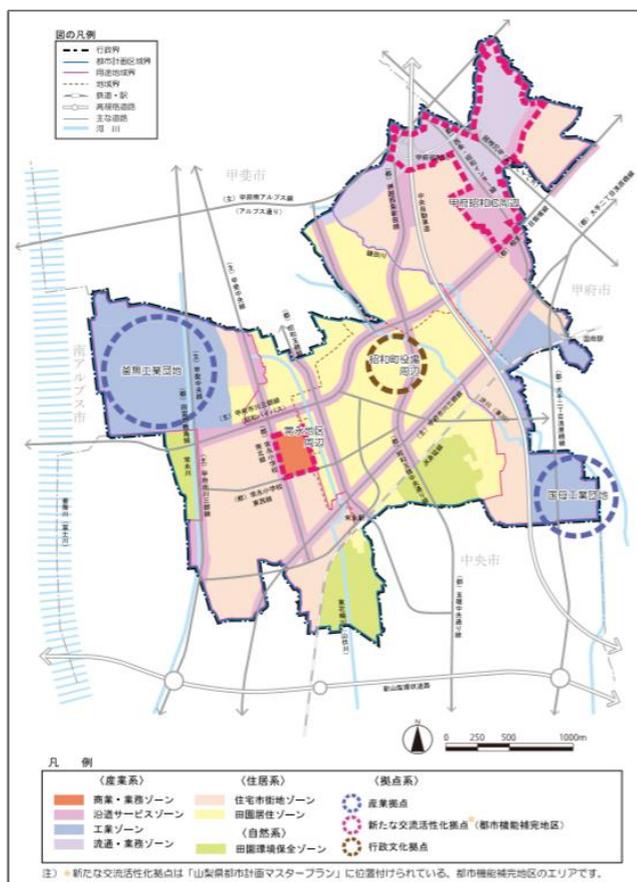


図-3 昭和町概要地図¹⁾

は、地下水を利用した植栽を配置し、視覚的に楽しめる空間を作り、地下水による暑さ対策なども行う。

3.2 米粉を利用したブランド食品開発

昭和町では、豊富な水資源を活用した米作も昔から盛んであった。近年では、収穫量が減少してきているものの、図-3 のとおり昭和町南部には、田園環境保全ゾーンが指定されており、米を中心とした農作物も昭和町の特産品である。

そこで、小麦アレルギーやグルテンに耐性が強い人、健康志向の強い人をターゲットとして、昭和町の豊かな水資源によって栽培された米から米粉を製造する³⁾。日本人の人口の1, 2%が食物アレルギーを持っている(乳幼児は乳幼児全体の10%ほど)。小麦アレルギーを持つ人は症状の重さに関わらず年を重ねるにつれ増加している。また、グルテンに関わる症状を潜在的に持つ人もかなりの割合でいると言われている⁴⁾。さらに、米は小麦よりも油の吸収率が小さく健康的であることから、小麦からグルテンを含まない米へと転換し、その需要が高まるのではな

いかと考える。そこで、米を6次産業化して米粉へと加工し、ブランド化した上で米粉あるいは米粉によるほうとうやお菓子類の特産品を開発し、販売することで昭和町をアピールする。ただし、現在の昭和町の米の収穫量はそれほど多くはない。そこで、県内の学校給食に提供したり、交通便利性の高さを活かし、昭和町を米粉の製造拠点として山梨県内のブランド米を集めて販売したりすることで、米粉の町として浸透させることを目指すことも考えられる。

3.3 温泉と医療の融合施設

昭和町は盆地の中心という地形的特徴から、温泉資源にも恵まれ、国内でも稀なモール泉(植物由来の有機物を含む温泉)が分布する地域である。

また、昭和町の近隣地域には山梨大学医学部附属病院があることから、温泉と医療を結び付けた施設の計画を提案する。温水プールやジム等の運動施設を併設し、運動・温泉・湯治・リハビリといった多岐にわたる利用者あるいは利用目的をターゲットとした健康特区を昭和町に設置する。さらに、附属病院からの直通バスなどで利便性を向上させ、県内外問わず昭和町を訪れる人を増加させることを目標とする。

4. おわりに

本研究では、昭和町ブランド強化において現地調査を行い、昭和町の特徴を前面に押し出せるブランド力強化策の提案を行った。今後は、その実現に向けた課題整理とその克服に取り組む予定である。

謝辞: 本研究を進めるにあたり、昭和町都市整備局より貴重なお話と資料のご提供をいただいた。また、2019年12月8日に開催された「第3回山梨県町村会・山梨大学連携リレーションポジウム」では、塩澤浩昭和町長をはじめ、町民の皆様から貴重なコメントをいただいた。なお、本研究は科学研究費補助金(課題番号:18K04387)、山梨県昭和町との共同研究、平成30年度山梨大学地域連携事業支援プロジェクトの研究成果の一部である。ここに記して謝意を表する次第である。

参考文献

- 1) 昭和町都市整備課: 昭和町都市計画マスタープラン, 昭和町, 2018.
- 2) 山梨県観光部: 平成30年山梨県観光入込客統計調査報告書, 山梨県, 2019.
- 3) 農林水産省: aff(あふ)2011年2月号, 特集: 米粉の可能性, 2011.
- 4) 消費者庁: 平成24年度即時型食物アレルギーによる健康被害の全国実態調査報告書, 消費者庁, 2013.